



高い技術一般向け商品に

中小の製造業が集積する綾瀬市。金属加工会社の「ナウ産業」はその「ものづくりの街」で歴史を重ねてきた。自動車部品から建築金物まで幅広く製造する高い技術力を生かし、一般消費者向けに開発したのが鉄鍋だ。

さびにくく表面処理した「鉄鍋」



鉄の溶接作業などをする社員たち。綾瀬市深谷上8丁目

株式会社ナウ産業 1971年、初代社長の今寿夫さんが藤沢市で創業、2年後に綾瀬市に移った。社名は名字の「今」が由来。従業員30人。鉄鍋は同社オンラインショップ(<https://nowsangyo.easy-myshop.jp/>)で購入できる。綾瀬市深谷上8丁目。☎0467・78・4155

品はなかった。鉄鍋を作るきっかけは5年前。映画・ドラマのロケで、一般消費者向けの製造誘致やグルメによる地域活性化を目指す市民組織に参加していたときのことだ。メンバーから「屋外で使える鉄鍋を作れないか」と言われ、初めて鍋を作った。そのころ、綾瀬市主催の一般消費者向けの商品開発を考えた。セミナーに参加。デザインと販売を手がける会社と協力して鉄鍋を本格的に作ることにした。市と市商工会が支援し、一般消費者向けの商品の開発を目指す「あやせものづくり研究会」も設立され、動きを後押しした。

だが、商品化するまでには3年かかった。大きさや重さのほか、見た目にも気を使って試作品を何度も作った。苦労したのは鉄のさびだ。洗っておくとすぐにさびる。あるとき工業団地の仲間との飲み会で、鉄の表面を硬くしてさびにくくする処理方法を知り、すぐに生かした。こうしてさびにくい鉄鍋が誕生。熱伝導性と蓄熱性に優れ、調理すると「ジュシーさとうまみ」を閉じ込めるという。2年前に販売開始。現在、テツコナベ(税別1万円)、テツナベ(同1万2千円)、四角い「Tetsu Kaku Nabe」(同1万8500円)がある。課題は販路という。昨年にはオンラインショップを開設。会社のこと積極的にSNSで発信している。「インターネットを活用して売り上げを伸ばしたい。ネットを通して会社の存在もアピールしたい」と将来に目を向けている。(上嶋紀雄)

今寿義社長

「テツ」ブランド増やしたい



綾瀬で生まれ育ち、郷土愛もある。ものづくりの街・綾瀬に貢献していきたいと思っています。雇用についても綾瀬に住んでいる人を積極的に採用していきたい。鉄鍋だけではなく、「Tetsu (テツ)」ブランドとして商品を増やしていきたい。

ナウ産業

11月の乗客 5年ぶり10万人超

大山ケーブルカー



11月の乗客数が10万人を超えた大山ケーブルカー。伊勢原市大山

紅葉時期に好天 3密も少なく

大山ケーブルカー(伊勢原市)の11月の乗客数が、5年ぶりに10万人を超えたことが分かった。運行する大山観光電鉄は、紅葉シーズン中、天候に恵まれたことに加え、コロナ禍で遠出を控えた人たちが3密の心配が少ない近場の自然に目を向け始めたためと分析。市が展開する県民向けキャンペーンなどが複合的に作用したとみている。

大山ケーブルカーは、ふもとの大山ケーブル駅から、大山寺駅を経由して山上の阿夫利神社駅までをつなぐ約8000mの路線。片道を約6分でつなぐ。大山観光電鉄によると、11月の乗客数は約10万1千人で、前年同月比で3割増。半分を紅葉のライトアップ期間の21、29日が占め、前年のライトアップ期間(9日間)を4割上回った。月別の10万人超えは、前月に新車両が導入された2015年11月の約11万1千人以来だ。

また、今年3月には新東名高速が伊勢原大山インターチェンジまで延伸し、利便性が向上。車で訪れた人も増えたとみられ、ペットの小型犬をケージに入れて乗車する人が目立ったという。伊勢原市によると、大山にある二つの市営駐車場の11月の利用台数は、二輪車を合わせて約8300台で、前年同月の約5900台を大きく上回った。

年度全体では大幅減見通し

ただ、ケーブルカーの乗客数は、今年度全体では前年度を大きく下回る見通しだ。緊急事態宣言で、ゴールデンウィークの4月29日、5月10日に運休するなど、4、9月はいずれも前年同月を下回った。また、12月に入ってから、年末年始の「GO TO Travel」の全国一斉停止に合わせて、スマイルキャンペーンのクーポン配

布の一時停止も決まった。大山観光電鉄は、11月の10万人超えに「回復の兆しが見えてきたことは間違いない」としながらも、キャンペーン停止による影響を注視。「GO TO Travel」の利用者は元々少ないが、スマイルキャンペーンは人気があり、懸念しているという。

ケーブルカーは乗車定員を3割ほど減らし、開窓

2023年
また「JFE
鉄所京浜
市、同社